

たきだ ごう  
滝田 豪

法学部 教授

修士（法学）  
政治学

## 主要な研究業績

□「『村民自治』の論理と中国の民主化」玉田芳史・木村幹編『民主化とナショナリズムの現地地点』ミネルヴァ書房、2006年

□「中国における民主主義観の対立：リベラリズムとポピュリズム」島田幸典・木村幹編『ポピュリズム・民主主義・政治指導：制度的変動期の比較政治学』ミネルヴァ書房、2009年

□「『村民自治』の衰退と『住民組織』の行方」黒田由彦・南裕子編『中国における住民組織の再編と自治への模索』明石書店、2009年

## 最近の研究業績

□「現代中国のアイデンティティと『伝統』：近代政治思想と儒教」『京都産業大学世界問題研究所紀要』第30号、2015年3月

□「日中関係の分析枠組」『産大法学』第50巻第1・2号、2017年1月

□「中国の国家体制とグラデーション構造」渡辺信一郎・西村成雄編『中国の国家体制をどうみるか』汲古書院、2017年

## □研究テーマ

## 中国政治の特徴の解明と動向分析

## □研究の取組み

1. 中国における近代国家建設の特徴  
近代国家のモデルは西洋で生まれたが、歴史や地理などの前提条件が異なる西洋と中国では、その建設のあり方は同じではあり得ない。その異同を明らかにするとともに、中国における国家や政治の特徴の解明にもつなげたい。

2. 中国農村の政治  
中国は多くの国民が農村出身者であり、農村の理解なくして中国の特徴を解明することはできない。具体的には、農村における近代国家組織の動態、村長直接選挙、あるいは貧困など農村社会問題全般、に関心を持っている。

3. 中国知識人の政治論  
とくに、1990年代末から行われた「自由主義」対「新左派」の論争、自由主義や民主主義、市民社会論、あるいはポストモダニズムなど、西洋で生まれた思想や理論の政治的側面を、中国の知識人がどのように理解し論じているかを明らかにし、そこから中国政治の特徴の解明にも目を配る。

4. 中国政治の動向の現状分析  
とりわけ習近平政権の成立以降、新しい動向が生まれており、それらに対する理解を進める必要がある。

(1) 1980年代以来の制度化の動向。習近平は江沢民・胡錦濤と比較して権力の集中を行った。また2期10年とされてきた任期を超えて継続する可能性も取り沙汰されている。これらがこれまで行われて

きた制度化を破壊しているのか否かを検討する。

(2) 反腐敗運動。習近平政権の国内政策で最も顕著なのが「反腐敗闘争」である。習近平への権力集中にも貢献したとされるこの政策について総合的な検討を行う。

(3) 外交と日中関係。習近平政権成立直前に行われた尖閣諸島国有化以降顕著に悪化した日中関係は回復傾向にあるが、その動向を把握する。また習近平政権下で対外的な積極姿勢が目立つようになり、さらに米国との関係が重大問題化しており、その動向を把握する。

## 5. 授業との関連

これらの研究成果は、アジア政治外交史や国際政治学の授業内容と直接関連する。